

会 議 録 (要 録)

会議名	第2回福山市長期総合計画策定審議会
日 時	2006年（平成18年）7月20日（木） 18時00分～19時50分
場 所	福山市役所6階60会議室
出席者	別紙「出席者名簿」のとおり
欠席者	眞田委員，細木委員

発 言 者	議 題 ・ 発言内容
○事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めに，福山市社会福祉協議会の杉原委員から福山市社会福祉協議会会長の岡野勝成委員に本日付で交代したことを報告する。 ・ 本日，眞田委員，細木委員から欠席のご連絡をいただいている。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回審議会では，市長より長期総合計画の基本構想について諮問を受けた。また，基礎調査の結果や基本構想素案について事務局より説明を受け，簡単な質疑応答を行った。 ・ 今回は本格的な審議をお願いしたいと考えている。 ・ 本日の審議会も公開で進めたい。 ・ 会議録を作成する関係から，発言される際には名前を名乗っていただくようお願いしたい。 ・ 本日の審議時間は概ね2時間となっている。 ・ 基本構想の素案について前半（1ページから14ページ）と，後半（15ページ以降）に区分して審議を行いたい。
○事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「第2回福山市長期総合計画審議会資料」について説明。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の意見についての対応としては，「第2回福山市長期総合計画審議会資料」にあるとおりでよいか。 ・ また，「人口減少時代の中」を「都市間競争時代の中」に変更するという伊藤委員からの指摘についてはどのように考えるか。
○門田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福山市の面積は518平方キロあるが，そのうち相当の耕地が農家の高齢化により荒廃しており，景観や環境の面で問題であると感じている。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご指摘いただいた発言は前回の審議会での検討事項ではなく，新たな

	意見か。
○門田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな意見である。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな意見は少しお待ち願いたい。先に前回審議会での発言について意見を伺いたい。 ・ よろしいか。
○一同	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、第1回審議会での意見に対しては、事務局よりあった説明のとおり整理するという事で進めさせていただきたい。 ・ それでは、基本構想素案の1ページから14ページまでについて意見を伺いたい。
○門田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、方々で水害が起きており、また土砂流を防ぐためにも山による保水が必要であり、農地をどのように保全していくかについて検討することが求められる。 ・ 景観面でも山が荒れているのはよくない。 ・ このような荒れた農地への対応について計画の中へどのように入れていくべきかはわからないが、いずれにしても計画に盛り込んでいくべきであると考えている。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耕地の荒廃について、生産という側面ではなく景観面や災害面との関係で保全していくことが重要であり、また、計画に盛り込んでいくことについて検討すべきであるという意見であった。
○安川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ソフト重視の経済社会」において、調和のとれた産業構造を維持していくという記述など、何かそのような形で農業の問題を含み、将来は多様な形であるが調和のとれた形をとっていくというような考え方が望ましい。 ・ 「グローバル社会」についてであるが、グローバルというのは同時にローカルなところから発信するのであり、このようにグローバルという考え方が求められる。
○永久委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業については、その多面的な機能に注目し見直していく必要がある。 ・ 私たちは安心・安全であることを求めており、食の安心・安全についても非常に重要である。また、自給率を確保するという意味からも第一次産業について見直していく必要がある。
○相川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ デイサービスに行った後、農作業を行っているというような人もいと聞くため、介護保険は適正に運用していただきたい。 ・ リバース・モーゲージという長期生活支援資金の貸付制度があるが、多くの地域で行っているが、広島県は現在も制度を導入していない。 ・ 具体的には、借受人の資産を担保に生活資金を用立てる制度であり、福山市も導入してほしいと思う。

○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今のご意見は、基本構想素案におけるどの部分に対する意見か。
○相川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本構想素案において少子・高齢化について記載があったため発言した。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子・高齢化の進行と人口減少社会というところにおいて、今相川委員より発言されたようなことが含まれていないという点について事務局はどのように判断するか。
○事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4ページの時代潮流、「少子・高齢化の進行と人口減少社会」とは、我が国の全体的な時代潮流として整理している。 ・ 相川委員の発言は、むしろ介護保険の適正な運営ということであれば、施策の大綱の中で位置づけた方がよいと考える。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ そのとおりであり、もっと先に議論すべき内容である。 ・ 介護保険、リバース・モーゲージの双方ともおそらく基本計画の段階で議論すべき内容と考えられる。 ・ それから、今までの意見の中で農業や農地の問題が多く指摘されたが、この意見についてはどうか。
○大元委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業に関する最重要課題は、担い手不足の問題である。 ・ 福山ブランドについて、つくったものが本当においしいということを示し生産しているが、それが定着するような方法で振興してもらいたい。 ・ 前回の基本計画においては、農林水産関連は4ページ分あったが、合併した新市も神辺、内海もすべて農地や漁業が多いため、6ページ分ぐらいにして、農業にはこのような楽しみがあるなど農業について宣伝してほしい。
○安川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者問題などを念頭におくと、農業によりものをつくるというのは健康の源である。そういう意味では、工業で物をつくる、農業でもものをつくるというようにものづくりを大事にするまちというまとめ方はどうか。 ・ また、人づくりを大事にするまちということにもつながる。
○大元委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ より具体的な内容は、福山市農業ビジョンにおいて記載すればよい。 ・ 健康で安心で、福山でつくったものはおいしい、したがって農業をやりましょうというような、農業の楽しさについて総合計画において触れていただきたい。
○門田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの委員の発言を聞いていても農業について心配していることがわかる。 ・ 農業生産もさることながら、この日本列島をいかにして荒れるのを防ぐかということが重要である。また、合併先地域はすべて農村である。 ・ 農業政策は非常に困難をとまなうが、せめて荒れる農地、山を何とかして防ぐという取組ぐらいは考えるべきである。
○山口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休耕田を活用して利益が得られ、さらに環境がよくなるということで

	<p>あればすばらしいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • そこで、例えば休耕田で米をつくって、福山市がどこかへ売るというアイデアがよいのではないか。米は牛肉等とは異なり維持管理のコストが安い。また、米はすぐにできるものではなく、作るのに何ヶ月もかかる。このため、米を福山市で作って、石油がとれる地域に売って、対価は石油で支払ってもらおうということも考えられる。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> • 農業に関する意見が多く出された。ただし、産業として農業を振興することは非常に難しいことである。
○大元委員	<ul style="list-style-type: none"> • 米は、生産過剰で困っている。 • 農政における細かい議論はこの審議会で検討する必要はないのではないか。 • ただし、荒れ地がないように担い手を集める方法を検討すべきではないか。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> • 以上の意見を集約すると、農業生産ではなく、農地の景観や緑地の保全などが検討すべき課題であるといえる。 • 私も個人的には原風景というのがなくなっていくということが寂しいと思っている。
○安川委員	<ul style="list-style-type: none"> • 先ほどのものづくりについて発言したのは、働くことは重要な意味をもっており、多くの市民が土地に親しむ形でのものづくりを行うことはよいことであると考えます。 • まちづくりには風景としての農業も含めてバランスのとれた考え方が必要である。 • 一方で産業の発展という場合に、高齢者問題等を考えると働く場を農業により確保しておくことも重要であると考えます。
○門田委員	<ul style="list-style-type: none"> • 農地、山林の荒廃が進行していくと何が起きるかわからない。地域社会が不安になると思う。このため、農地を守って、美観を保つことは重要である。 • 農業生産は非常に難しい問題である。 • 農村地帯の従来の美観が残るような1つの手だてを考えていくことはきわめて重要である。 • 芦田川の護岸工事もコンクリではなく木を使用した。こういう取組が、やはり将来にわたっても大事である。
○岡野委員	<ul style="list-style-type: none"> • 基本的に農業政策については国の政策が大きなバックになってくると思う。 • 農業に関する各委員の意見に関する記述は、基本構想素案の23ページの施策の大綱の「地域特性を生かした農林水産業の振興」において唐突に出てくる。 • このため、現状のところにおいて、農業に関して記載するなど再整理し、基本目標、施策の大綱につなげていくことが求められる。 • また、一次産業、第二次産業については記述が少ない。それを受けて人づくりを進め、新たな文化、産業を創造するところへ唐突に飛んでいると思われるので、つなぐような記述があればと思う。

○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ なお、農業に関する具体的な検討は農政における政策運用により具体化されると考えればよい。 ・ 農地や山林の保全と活用について、前段の方で後段につながるような表現を検討するということにしたい。 ・ なお、農を生産地としてとらえるのではなく、健康や原風景などをキーワードとして検討することにした。 ・ 以上、事務局において本日の意見を整理していただき、次回以降にまた検討したい。
○井上タカ子委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先日開催されたコミュニケーション講座において子どもの問題を検討したが、この中でニートの子どもがたくさんいることが話題となった。ニートにさせない取組も重要な検討課題である。 ・ 物の豊かさに慣らされているという環境が、ニートを多く生むのだと考える。親の育て方についても、対策をうつ必要がある。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ そうした話は基本構想のどの部分と関連するのか。
○井上タカ子委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな問題になると思う。
○事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ いわゆるフリーターとかニートの問題については、5ページの⑥「雇用形態が多様化する社会」という箇所において整理している。特に若年層で定職を持たないフリーター、あるいはニートが増加しているという現状とについて整理している。 ・ これを受け、先ほど岡野委員が言われたように、施策の大綱の中で産業政策を整理している。
○蔵田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 井上委員さんの言われた点、おそらく4ページの「次代を担う子どもたちの健やかな成長を支援するため」という箇所と関連する意見だと思ふ。 ・ ニートにならないように育てることが重要であり、そういう子に育てないための施策はどこにあるのかということと言われたのだと思ふ。
○岡野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局に質問したい。福山市における自殺数はどのような状況か。全国ベースの数字は公表されているが、福山市のデータはわからない。また、高齢者の自殺数、40代・50代の人の占める割合も把握しておきたい。
○事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確かに高齢者人口の増加に伴いまして、自殺者も確実に増加していると考えている。自殺に関する福山市のデータは、現時点では整理できていない。必要であれば次回審議会で報告させていただく。
○三上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ フリーターとニートの箇所についてであるが、「こうしたことから個人の価値観の云々で、若者の就職支援を強化することが重要と考えられる」と書いてあり、確かに就職支援も重要であると思うが、若者があえてニートになったりフリーターになったりするのには、就職がないという理由だけではなく、自分の将来に対して夢を描けないからだ

○常盤委員	<p>思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • このため、学校のみならず家庭での教育も含めて、幼いころから自分の将来に夢を持てるような教育が重要であると思う。こうした点も基本構想素案に少し盛り込んでおく方がいいのではないか。 • 温かい愛情を子どもたちに与えてやらなければ、そういう子どもたちが変わっていかないと思う。子どもは親に叱ってほしいと考えているが、叱らない親がおり、家庭の中での愛情が薄れていると思う。 • 生きる喜び、誰かのために尽くす喜び、そういうことが重要である。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの件については、施策大綱の子どもが健やかに生まれ育つ環境都市に含まれるのではないか。 • 具体的にニート対策などは、もっと先の施策検討での話である。
○藤本委員	<ul style="list-style-type: none"> • 先ほど井上委員が言われたような内容も、既に現在の学校教育でやられていることである。やはり、子育てをするためにも安定した家庭を築かなければいけない。さらに、安定した家庭を築くためには、親が安定した職業につけないといけない。 • 基本構想には大綱があるため、できればその中で少し抜けがあれば、それをつけ加えるという形で議論を進めていくのが望ましい。
○山口委員	<ul style="list-style-type: none"> • 基礎調査報告書の 100 ページでは学校教育の充実があげられているが、果たして小学校、中学校、高校のどこに重きをおいているのか。どこが心配なのかもっと具体的であった方がよいと思う。
○相川委員	<ul style="list-style-type: none"> • 中学校について、広島県の平均よりも福山市は身体能力も学力も少し劣っているという事実がある。 • 中学校には給食がない。給食があれば体力が付き学力もついてくるのではないかと思う。 • 学校長が3年ぐらいでかわることは問題である。これから一生懸命やろうとしている中で学校長がかわると少しトーンが落ちる。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> • いろいろご意見、お気持ちはわかるが、検討しているのは基本構想である。
○相川委員	<ul style="list-style-type: none"> • 一つの意見である。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> • では、そういう意見ということで扱わせていただく。 • それでは、この子どもの教育問題のことは終わりにして、前回からの懸案事項である「まちづくりの基本的課題」における「人口減少時代の中」の「都市間競争の時代に」への修正提案について審議したい。
○伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> • 10 ページの文章をよく読めば、「都市間競争の時代」がキーワード、あるいは基本的課題になっていることがわかる。また、人口減少時代は日本全体の話であり、福山市に限定したことではない。 • 基礎調査における福山市の人口推計はおそらく全国の平均値で計算された結果だと思う。福山市は拠点性もあり、産業構造の面からみても人口はあまり減少しないと思う。また、人口減少は 50 年ではイン

	<p>パクトはあるが、10年間では大きなインパクトはないと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・むしろライバルの都市が多様な取組をしている中であって、福山市もライバルの都市に打ち勝っていくことが重要であり、その意味で「都市間競争の時代」の方が望ましいと考える。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> ・10年先を目標にした場合、福山市の人口は推計結果では若干減るということでもいいか。
○事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・10年では微減するという推計結果である。
○安川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・福山市は拠点性があり人が集まってくるという意味では、スローガンとして「人口減少時代の中」とここで言うのは変えた方がよい。 ・一方、「都市間競争の中」でよりもっとポジティブな言い方の方がよいと思う。
○岡野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・住みたい町をつくるための構想ということを考えると、「人口減少時代の中」という修飾語はどうかと思う。 ・「都市間競争の中」は、結果的にどこかの都市が寂れるということになり別のキーワードの方がよい。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> ・「人口減少時代の中」はよくないという意見と、「都市間競争の中」に変更するのはどうかという2つの議論が含まれている。
○山口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・都市はどこかの都市と比較され運営されている。競争である。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、「人口減少時代の中」は適切ではないという意見に賛成の人は意見をお願いしたい。
○藤本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少が今福山市にとって本当に課題かといえば、必ずしもそうではない。ただし、都市間競争ということになると、それも課題と捉えるのはどうかと思う。
○門田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山や倉敷と競争した場合、どこかをつぶさなければいけないという発想になる。このような都市間の悪い競争というイメージを福山市に対しては持ってもらいたくない。
○伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・別に近隣の都市をつぶすということを言っているわけではない。各都市が切磋琢磨してすばらしいまちづくりをするために都市間競争をするという意味である。 ・10ページを読めば、キーワードは都市間競争と思う。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的課題のうち一つ「健康で生き生きと安心して暮らせるまちづくり」では枕言葉がないので、「拠点性と求心力を備えたまちづくり」も枕に言葉を付けなくともよいのではないか。
○安川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この10ページのところの説明文のところ、例えば下から5行目のところあたり、中四国地方の拠点都市としての拠点性と求心力を備えた都市機能の充実、都市のアイデンティティーの確立というような

○井上会長	<p>ことが書かれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • これら点を一言で言えば、例えば個性あふれた都市ということができる。 • 基本的課題については本日結論を出さないこととしたい。各委員の意見をまとめると、「人口減少時代の中」と書くのはよくないという意見が大勢だということ、どのように変更するかは要検討であることといえる。 • 私も個人的には「拠点性と求心力を備えたまちづくり」というのは、10年前の総合計画でもそうあるべきといえるため、人口減少に関係なくそのようにあるべきという問題もある。 • 枕の言葉は変更する方向で検討していきたい。こういう意見がどの程度、他の意見がこのぐらいというように、必ずしも1つにまとめなくてもよいかもしれない。
○安川委員	<ul style="list-style-type: none"> • グローバルと言うだけでは、やはりこれも何年か前の考え方だと思う。ローカルなところに足場を据えてグローバルに発信するという観点が今後の都市のあり方としては重要である。また、最近グローバルという言葉もつくられている。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> • 私個人的には安川委員のお考えに賛同するところがたくさんある。 • グローバル、かつボーダレスな社会に向かっているというが、ボーダレスと同時にボーダーモアも進行しているという気もする。 • 福山市と尾道市も背中合わせというか、相互に協調しないという印象を受けている。 • グローバルになればなるほど、ローカルな個性がないと尊敬されない。グローバルになればなるほどローカルな風土を生かすことが求められる。
○安川委員	<ul style="list-style-type: none"> • 私は全く賛成で、ローカルな個性をきちんと打ち出した方がよいと思う。
○岡野委員	<ul style="list-style-type: none"> • 3ページ下から5行目のところに、社会経済の動向を踏まえた施策の推進とあるが、このあたりに今安川委員が言われる部分の具体的なものにつながるような表現をする可能性はあると思う。 • ただ、この結語が「産業競争力を高めていく」となっており、非常に狭い範囲の内容となっていることが問題である。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> • 国際感覚を身につけた人材の育成という記述と関係するのではないか。 • 国際感覚を身につけた人材とは、英語を話せるということだけでなく、日本の文化、ローカルな文化について外国に紹介できるということである。 • 個人的には国際感覚を身につけた人材育成には、その土地の文化の研究などローカルの理解を含むと考える。
○常盤委員	<ul style="list-style-type: none"> • 基本構想素案の8ページに各小学区に公民館が整備されているという特色が記載されており、本当に我々にとってはありがたいことでは

○永久委員	<p>あるが、中央公民館の舞台の緞帳が作動しないという点は問題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4 ページのところに「少子高齢化の進行と人口減少社会」ということで、真ん中あたりに「少子化問題や子育て支援対策として、子どもを産み、育てやすい環境づくりを行うとともに」とあるが、市民の日常生活の不安というのは、社会保障のこと、雇用のこと、それから収入のことだというのが 80% 近くの者が感じているというふうな資料をどこかでこの前あったか聞いたと思う。 子どもを産み、育てやすい環境づくりということになると、母親にとっても雇用の問題とか年金とか健康保険であるとか処遇とかというのが非常に大きな要素を占める。 働き続けるとか、それから再就職をすとか、そういったことの雇用の応援をするとか支援をするとか、そういう面の記述とか、そういう面を取り上げるということも必要ではないかと思う。
○安川委員	<ul style="list-style-type: none"> 賛成である。そういう意味では、雇用形態の箇所は、若年層と定年退職と書いてあるが、若者を初め女性や高齢者の仕事のしやすい、暮らしやすいという表現にした方がよい。
○永久委員	<ul style="list-style-type: none"> 働き続けるための施策も必要であり、また子育てのために退職の選択をした場合の再就職支援も必要である。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> 若者就職支援と退職後の就職支援に併記して、そうした人への支援を、ここに入れたいほしいということか。
○永久委員	<ul style="list-style-type: none"> はい。
○藤井副会長	<ul style="list-style-type: none"> 14 ページのところの一番下の行、「市民と行政が対等な立場で協力し合い」という、この言葉は最近協働のまちづくりの中で出てきた言葉だが、あえて対等という言葉が入っている。 今までは対等でない協力関係であったということを知っているのかどうかはわからないが、対等な立場というのはどういうことをもって対等な立場ということかということを、少し意味づけとか説明をしておかなければならないのではないか。 対等とはどういうことをもって対等な協力関係なのかというのは、この計画全体の中の大きなテーマだろうと思う。 これについては次回でも構わないが、次回審議する 15 ページからの基本方針にもかかわってくると思うのであらかじめお願いしておく。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> 藤井副委員長の意見について事務局も考えてほしい。
○岡野委員	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 22 年に現行の地方自治法が施行されて、国と地方公共団体という関係ができた。ところが、戦後復興で住民というのはお上に任せばいいという時代が続いてきた。 しかし、行政に対して物を言わなければいけなくなったのが公害問題だった。これが昭和 40 年。公害対策基本法ができたのは、住民の行政に対する行動があったからできたという、そういう歴史がある。行

<p>○藤井副会長</p>	<p>政は我々が意見を言えば聞いてくれるぞと。</p> <ul style="list-style-type: none"> • また、高度成長時代には言い過ぎてきた。税収がたくさんあるからどんどん言えばいいと。 • したがって、行政の中にも、都道府県は市町村の上位団体だというふうな誤解があった。現行もそうだが、都道府県と市町村は同等の立場ですよという。これは 2000 年の法改正の中で明確になったわけであるが、行政サイドから見れば住民に対しても平等ですよ、対等ですよという、そういうふうなものをどうしても意識する。 • 我々民間から見ると、任しておけばいいような形の市民を育ててきた。だから、そういう市民の方がよかったというふうな歴史の中でそうしてきて、今や住民参加とか市民参加とか言わないと、もう行政が回らなくなってきた時代になって、だからあえて対等な立場でというふうに言わざるを得ないような時期になってきている。 • だから、今回の長期計画にも公募委員を入れなければいけない。可能な限り住民参加、市民の意見を入れていこうというスタンスになってきてるのだというふうに思うので、言葉だけがひとり歩きしたりこういう文言を入れればいいというものではない。 • 実際にそれが具体的に対等な立場で協力し合えるような計画づくりをしなければならない。そうしないと責任だけが、我々市民参加でこの審議会で計画を審議したじゃないかと、市民の皆さんも意見をいただきましたよということだけが残ってしまう。 • だから、むしろそういう形でこのところをきちっと整理しておかないと、単なるこの審議会、計画策定委員会が形骸化する可能性がある。 • 本当にこの計画を実際に市民サイド、市民の目から見ていくような、そういう視点でつくり上げていかなければいけないのではないかと、いう。そのところをしっかりと押さえたい。
<p>○山口委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 20 ページについて、「市民が生涯にわたって心身の健康を増進し、生きがいを持って生活できるよう生涯スポーツ活動の推進を図る」ということは、どういう試案があるのか、事務局の方でご説明いただきたい。
<p>○井上会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> • もう時間が少ししかないが。
<p>○山口委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 次回でも構わない。
<p>○井上会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> • では次回改めて説明する。
<p>○門田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 今、藤井副会長がおっしゃった協働のまちづくりについてであるが、絶えず口では市と対等に物を言うのだと言いつつも、行政が主導になっている。今度の協働のまちづくりに関しても行政が主導でスタートした。 • 行政が一生懸命どんどん、どんどんと1人で動き、「対等の」という言葉をすぐ使うが、果たしてそれで対等だろうかというのは絶えず疑問である。 • そのため、やはりお金を持っているところが強いということになる。それについていかにざるを得ない。無理な計画を立てても1年では執行

○大元委員	<p>できない。せめて3年はかかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 例えば記念誌にしても、バラ花壇にしてもやはり最小限3年必要である。したがって、今のすべての事業は1年30万いただく。そういうことでは実際に事業はできない。 予算があるから対等、予算がないから対等でないという、これははっきりしている。しかし、金を使わずに行政と相談しながら対等な話し合いの中でいい福山市をつくっていくという方向付けを検討すべきである。 資金供給があるからやろうというのではなく、いい見本があったらそれに倣って一緒にいい方向付けでいい福山市をつくっていくという考えが必要だと思う。 農業の中でも、来年からは自分が考えて、自分がやって、それで生活ができれば国が補助金を出してやりましょうと。補助金のできるような方向づけで農業を一生懸命やってみなさいと。対等な立場で農業技術を教えましょうという時代が来ているような気がする。 対等な立場というのは、もう補助金行政ではないですよということではないかと思う。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> 今日のまとめとしては、農地と山林の保全と活用の問題、それから子どもの教育の問題、最後に協働に関する対等の立場、育てが終わったお母さんの問題とか、その辺の問題を提言として入れていく。 基本的課題の問題は先送りとする。 これぐらいで今日はまとめたいと思うが、抜けているかもしれないので後で整理してまた次回に示させていただく。
○事務局	<ul style="list-style-type: none"> 今日は14ページまでということで、将来都市像についての議論が今の時点でまだできていないので、そのあたりを議論したい。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> あと5分ぐらいなので、あるいは次回になるかもしれないけど、13ページの将来都市像は「にぎわい しあわせ あふれる躍動都市 ばらのまち福山」と、こういうのをキャッチフレーズ、こういうのを都市像にしたいと。キャッチコピーというのか。 福山の都市像、都市のイメージって何ですかと言われたら、こういうまちですよと。この内容が意味するまちに向けていくと。 これについてご意見を、もしくは意見がなければ、この案で結構ですよという答申を頂戴したい。 最後にもう一度決着をつけるつもりだが、とりあえず今日のところはこれで良いだろう。
○事務局	<ul style="list-style-type: none"> 4案あったうちから、これに事務局としては絞り込んだ。
○井上会長	<ul style="list-style-type: none"> 4案、どこに書いてあるのか。
○事務局	<ul style="list-style-type: none"> 私どもが当初作成したものについては、案を4つ並べて、このうちどれがいいかと考え、庁内の策定委員会の方でこれに絞り込んだ。2月

<p>○事務局</p> <p>○井上会長</p> <p>○事務局</p> <p>○井上会長</p>	<p>以前の資料には4案書いてある。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 次回審議会の案内の際には4案を提示する。・ それでは、次回のスケジュールの説明をお願いしたい。・ 次回のスケジュールはまた追って調整させていただく。・ 次回は8月3日頃を予定している。あと詳しくまた調整させていただく。・ 次回は主として15ページ以降、今日残した課題について議論を行いたい。 <p style="text-align: right;">(了)</p>
---	--

■出席者一覧

	所属団体等	名前
委員	福山市連合民生・児童委員協議会 副会長	あいかわ ひろみ 相川 博美
委員	福山市教育委員会 委員長	いとう やすあき 伊藤 泰昭
委員	福山市女性連絡協議会 会長	いのうえ こ 井上 夕カ子
会長	福山大学 工学部教授	いのうえ のりゆき 井上 矩之
委員	福山商工会議所 副会頭	うらべ まこと 占部 誠
委員	福山市農業委員会 会長	おおもと いくお 大元 活男
委員	(社)福山市社会福祉協議会 会長	おかの かつなり 岡野 勝成
委員	福山市PTA連合会 事務局次長	くらた いくこ 蔵田 郁子
委員	福山文化連盟 副会長	ときわ はつえ 常盤 初江
委員	公募委員	ながひさ ひろこ 永久 洋子
副会長	福山平成大学 福祉健康学部教授	ふじい さとる 藤井 悟
委員	連合広島福山地域協議会 事務局長	ふじもと かずし 藤本 和士
委員	広島経済同友会福山支部 副支部長	まつもと しげたろう 松本 茂太郎
委員	(社)福山市観光協会 副会長	まるやま まりこ 丸山 万里子
委員	公募委員	みかみ きくみ 三上 貴久美
委員	福山市自治会連合会 会長	もんでん つとむ 門田 勤
委員	福山市立女子短期大学 学長	やすかわ えつこ 安川 悦子
委員	(財)福山市体育協会 常任理事	やまぐち しょうじ 山口 正司

(注) 五十音順